

令和7年度 第10回

印西市総合教育会議

会議録

令和8年2月26日

令和7年度 第10回 印西市総合教育会議 会議録

日時：令和8年2月26日(木)
15時00分～16時30分
場所：印西市役所 大会議室

1. 開会
2. 市長あいさつ
3. 議題
(1) パブリックコメントの結果を踏まえた印西市教育ビジョン（最終案）
について
4. 閉会

出席者(6名)

印西市長 藤代 健吾
印西市教育委員会 教育長 渡邊 義規
印西市教育委員会 教育長職務代理者 豊田 光弘
印西市教育委員会 委員 長尾 香奈
印西市教育委員会 委員 屋敷 毅
印西市教育委員会 委員 増田 洋子

市長部局

副市長 野崎 崇正
企画財政部企画政策課長 武藤 誠
企画財政部企画政策課政策推進係長 藤代 悠子

教育部

教育委員会教育部教育総務課長 鈴木 圭一
教育委員会教育部教育総務課課長補佐 木崎 和博
教育委員会教育部教育総務課総務係長 中野 竜一
教育委員会教育部学務課長 加藤 知己
教育委員会教育部指導課長 岡田 光靖
教育委員会教育部指導課副参事 深澤 淳一
教育委員会教育部教育DX専門官 松本 博幸
教育委員会教育部教育センター所長 斉藤 睦雄
教育委員会教育部生涯学習課長 中嶋 広
教育委員会教育部文化振興課長 飯島 正義

(午後3時00分)

企画政策課長 (進行) それでは、ただいまから令和7年度第10回印西市総合教育会議を開会いたします。

印西市総合教育会議設置要綱第4条の規定により、会議の議長は藤代市長にお願いいたします。

藤代市長 (議長) はい、それでは、今年度10回目の総合教育会議を始めさせていただきます。

今日ですけれども、パブリックコメントです、教育ビジョンについて、多くの市民の皆さんから頂戴をしておりましたので、その結果と、それを踏まえた上で最終的な教育ビジョンをどうするかということについて、皆さんと議論させていただければと思います。

それでは、まず議題1ということで、パブリックコメントの結果を踏まえた印西市教育ビジョン最終案について、企画政策課の方から説明をお願いします。

企画政策課長 はい。

それでは、印西市教育ビジョン(案)に関するパブリックコメントの結果及び今後の対応について説明をさせていただきます。

こちらの目次に沿って説明をさせていただきます。

初めに、パブリックコメントの実施内容でございます。

これまでの経緯といたしましては、令和7年5月から11月にかけて8回の総合教育会議を開催し、議論を重ねまして、印西市教育ビジョン(素案)を策定いたしました。

令和7年12月17日に市の政策を決定いたします、政策調整会議で決定。また、12月18日には市議会への説明を行い、印西市教育ビジョン(案)を策定いたしました。

市民の皆様からご意見を広くお伺いするため、令和7年12月23日から年明けの令和8年1月15日にかけて、市民意見公募手続き、パブリックコメントを実施したものでございます。

次に、意見募集の結果の概要でございます。

ちば電子申請サービスや窓口への持参により28名の方から58件のご意見をいただきました。

いただいたご意見はいずれも本ビジョンと重なる内容が中心であったことから、取り扱いの区分といたしまして、「記載済み」として、すでに案に盛り込んでいるもの13件、「参考」として、今後の取り組みの参考とするもの18件、「その他」として意見等をお伺いするもの、別の計画や取り組みの中で参考とするもの27件と整理をしております。

このため、案の修正は行わないことといたしました。

続きまして、主なご意見と市の考え方についてご説明いたします。

まず、総論またはビジョン全体についてのご意見といたしましては、教育ビジョンへの期待や市の教育の方向性について、共感をしていただく内

容や、文化芸術・生涯学習など、社会教育分野の位置付けについて懸念するご意見をいただきました。

市の考えといたしましては、歴史、文化芸術及び生涯学習に関する事項につきましては、別途計画を策定する予定となっております。

次に各論についての主なご意見でございます。

「プロジェクト01教職員：働くプロジェクト」についてのご意見といたしましては、全体から見ましても非常に多くのご意見をいただき、先生方からも多くご意見をいただきました。

教頭先生の業務軽減対策、業務をサポートしてくれる人材配置、業務時間外の留守番電話設定など、教職員の負担軽減を提案していただくご意見が多くございました。

市の考えといたしましては、教頭先生の業務実態を見える化する、シャドーイング調査や人員体制の強化など、教育ビジョンにあります各施策の中でしっかりと取り組んで参ります。

次に「プロジェクト02子ども：学ぶプロジェクト」についてのご意見といたしましては、教育のデジタル化や多様な学びのあり方に関するご意見が多く、特にデジタル教育とこどもの主体的な学びのバランスを重視するご意見がございました。

市の考え方といたしましては、先進的なデジタル教育の推進と市の特色である自然を活かした学びを調和的に推進するなど、教育ビジョンにあります各施策の中でしっかりと取り組みを進めて参ります。

次に「プロジェクト03地域：共に育むプロジェクト」についてのご意見でございますが、地域資源の活用やコミュニティ・スクールへの期待とともに、教職員への負担やこどもの居場所づくりへの配慮を求めるご意見がございました。

市の考え方といたしましては、学校運営協議会やコーディネーターの設置、アフタースクールの導入など、教育ビジョンに示す各施策の中でしっかりと取り組みを進めて参ります。

以上のご意見の他にもたくさんの声をいただき、教育ビジョンに対する関心の高さが実感できたところでございます。

続きまして、今後のスケジュールについてご説明させていただきます。令和8年3月中に印西市教育ビジョンを確定いたしまして、市のホームページ等により周知を行います。

併せて、小中学生を対象といたしまして、イラスト募集を実施いたします。

イラスト募集の目的といたしましては、子どもたちに参画していただくことで、子ども自身が未来の学びや学校の姿について考え、また学校や家庭を通じた募集を行うことで、周知にも繋がるものと考えております。

募集の対象は市内在住の学の小中学生で、募集期間は春休み前からゴールデンウィーク明けまでを予定しております。

募集するイラストは、現在表紙を合わせて10ヶ所を予定しており、イラスト挿入予定部分に番号とテーマを設定いたしまして、該当テーマに沿

ったイラストを応募していただく予定でございます。

最後に、今後の推進体制について説明させていただきます。

教育ビジョンは策定して終わりではなく、着実な推進を図るため、教育委員会に新たな係を設置するなど、体制を強化するとともに、総合教育会議により継続的に進捗を確認して参ります。

また教育委員会では、印西市教育施策を毎年度策定いたしまして、施策の進行管理や進捗管理など実務マネジメントを行います。

教育施策では、各施策の数値目標を設定し、評価も実施いたします。

各取り組みの状況や課題につきましては、総合教育会議に報告いたしまして、共有させていただきます。

総合教育会議では、教育委員会からの報告により、各施策の実施状況の確認及び次年度の方向性の協議など、政策マネジメントを行います。

会議の開催のイメージといたしましては、6月頃に年度当初の取り組みや方向性の確認と共有、9月頃に進捗状況と重点課題を共有いたしまして、次年度予算を見据えた議論を行います。

年度末に年度総括と次年度の方向性を確認いたしまして、このサイクルを行うことにより、教育委員会と市長部局が一体となって、印西市教育ビジョンの推進を図って参りたいと考えております。

説明は以上でございます。

藤代市長
(議長)

はい。ありがとうございました。

この後、今日の配付資料でいうと最終案もありますけれども、最終案の説明は、この後あるのでしょうか。ないということでもいいのですよね。

今日は画面に最終案を投影できる準備はされていますか。

それでは、ただいまの説明に対しまして、コメントであるとか質問がある方は、お願いいたします。

はい。それでは増田委員、どうぞ。

増田委員

はい。教育委員の増田でございます。

丁寧なご説明ありがとうございました。

このパブリックコメントに寄せられた市民の方々からのご意見などについて、その内容を把握して、教育ビジョンに盛り込まれているものとか、今後の参考とするもの等にまとめるということは大変な作業であったろうかと思えます。

事務局の方々がこの貴重なご意見に対して丁寧に慎重に対応されたというふうに感じております。ありがとうございました。

この教育ビジョンで印西市の教育の方向性が示されて、今後、市のホームページや広報で市民に周知されていく予定になっておりますが、この教育ビジョンはどのような形で学校の方におろされていくのか、その時期や方法にお考えがあればお伺いしたいと思います。

よろしくお願いいたします。

藤代市長
(議長)

これは教育長ですかね。

渡邊教育長

はい。ありがとうございました。

今、ご指摘いただいた通り、このビジョンに掲げてあります各施策を、現場の方々に理解してもらわなければ何の意味もありませんので、まずは、最初に管理職に向けて、4月の最初の、第1回目の校長会議、それから教頭会議、この場で概要の説明を行いたいと思っています。

さらに、その後は、こどもたちと直接向き合ってくれている教諭の方々については、最初、それぞれの学校を訪問して説明しようとか、あるいは中学校区単位でとか、いろいろと考えたのですが、やはり学校の負担になるのではないかと、時間を取ってもらうということは。

ですので、こちらで例えばアーカイブ機能を使って、説明の動画を作って、それを学校の職員会議の後でしたり、研修の場でしたり、そういうところで視聴していただいてということ、まずは考えているところです。

藤代市長
(議長)

他にいかがでしょうか。

今の点で言うと、多分このビジョンをお伝えすることも大事なのですが、ビジョンの中での取り組みにしっかりと先生方、現場の先生方に関わっていただくということが、もしかしたら一番大事なのかなということは今横で伺っていて感じました。

それこそ、シャドーイング調査というのは、要は、まずは教頭先生たちの日々の業務の状況を見ながら、どこに改善点があるか、どうしたら負担軽減できるか、というような話を、影のように、シャドーですから、調査させていただいてという、まさに現場の先生方のご協力をいただいて、ということになっていくわけですね。

そういった様々な取り組みがあると思うので、そこを我々が一方的に進めていくということよりは、現場の先生方をなるべく巻き込んで進めていくということが、実は遠いようで一番正攻法のアプローチなのかなと今感じました。

どうでしょうか、教育長。

渡邊教育長

今、市長がおっしゃった通りで、それこそ今までも何回か出ていますが、絵に描いた餅では全く意味がありませんので、実際に現場で仕事をさせていただく方が取り組んでいただいて、それに伴走する形で関われる部分は我々も関わっていく、その繰り返しなのかなというふうに思っています。

藤代市長
(議長)

今、最近我々の中で1つ論点としてスクールロイヤーというのですか。

学校の現場で、いろいろなトラブルがあるところに対して、現場の先生たちだけだと負担がどうしても大きいという中で、第三者的な方に入っていただくという意味で、例えば弁護士の先生等に、その間に入っていただ

くというような制度も今検討しようとしていますけれど、そういうものも、まさに現場の課題を一番ご存じの先生方にお話を伺いながら、制度設計をしていくとか、まさにそういう進め方になってくるのですかね。

渡邊教育長

そうですね。

まさに今、市内の小中学校でも何件か、長期化している課題を抱えている学校もありますので、そういったところで、やはり現場の管理職も含めて、現場の方々が疲弊しないように、我々も含めて、指導主事等も大変な思いをしている部分もありますので、今、市長が言ってくれたような専門家、弁護士さんをこちらで働いてもらえるようにして、専門的なアドバイスをいただくとか、あるいは実際に関わっていただく、対面で関わっていただく、そのような制度設計をしていきたいと考えています。

藤代市長
(議長)

他にいかがでしょうか。大丈夫ですか。

では、豊田委員、お願いします。

豊田教育長職
務代理者

すみません、教育委員の豊田でございます。

この教育ビジョンが3月、4月から施行されるというようなお話を先ほど伺いましたけれども、そのあと、例えば小中学生のイラストの募集ですとか、そういったものがあって、最終的にはこの紙ベースですとか、AIを駆使した、例えばそういった公表をされるかということになると、やはり半年ぐらい先になってしまうということなのではないでしょうか。

その辺を教えていただければと思います。

藤代市長
(議長)

これは事務局の方からお願いします。

企画政策課長

教育ビジョンといたしましては、確定はいたしますので、ホームページの方には先ほど申し上げましたとおり、令和8年3月にはアップさせていただきます。

併せまして、よりブラッシュアップしたといえますか、こどもたちの絵もゴールデンウィーク明けまで募集しますので、それをさらに選定させていただきます。イラストを挿入してこどもたちの絵を載せたものということで、なるべく早く、それを入れ込んだものを形にいたしまして、そちらに差し替えさせていただく、そういうことで考えております。

以上でございます。

豊田教育長職
務代理者

はい。ありがとうございました。

教育ビジョンの作成にあたって、このこどもたちが自分たちもその作成にイラスト等を通じて関わったとか、そういったことがあれば、大変興味深く、また手に取って、こどもたちも見てくれるのではないかと思いますので、どうかその辺も早めの手立てをお願いしたいと思います。

以上でございます。

藤代市長
(議長)

他にいかがでしょうか。屋敷委員いかがでしょうか。

屋敷委員

はい、屋敷です。よろしくお願いします。

自分が聞いていて感じたことですが、推進体制のところにあります。始まって、進行状況を確認して、最後に年度の総括をします。

やはり進行状況によって、現在の状況を確認していくというのは、とても大事になってくるのではないかなと思います。

また、その際には大変お手数おかけするようになると思いますけど、ぜひよろしくお願いいたします。

藤代市長
(議長)

長尾委員、お願いします。

長尾委員

ありがとうございます。

先ほどの資料にもイエナプランについて言及があったのですが、私も総合教育会議を通してイエナプランというものを初めて知ったのですが、これからの子どもたちに求められるのはやはり与えられたものをこなす力ではなくて、自分で考えて問いを立てて行動していくそういう力が、求められていくということで、私もこのイエナプランというものに非常に将来性を感じます。

パブリックコメントの中にもありましたが、この子どもたちが数字に縛られるのではなくて、もっと個性を尊重できるような、例えば通知表を廃止したり、そういう何か具体的なことも書かれてあったと思うのですね。

そういうことも、含めて、この印西市はイエナプランを今後公立学校に入れていくことを検討されていくのかなということを感じ、もしそういうふうになっていったら、少し面白いことになるのかもしれないなというふうに感じました。

藤代市長
(議長)

教育長、いかがですか。

渡邊教育長

夏の総合教育会議で話をお聞きして、考えたと思います。

その時にも少し私も発言しましたが、すべての学校に導入するということは、なかなかハードルが高い部分があります。

ですけれど、特に小規模校の学校や、またすごく自然豊かな環境に恵まれた学校もありますので、そういうところで取り入れられる部分については、しっかり取り入れていけるのかなというふうには考えていますので、これはまたその学校の校長先生等とも話を進めながら、やっていきたいなどは思っているところです。

藤代市長
(議長)

まずは日帰り等で、少し研修ではないですが、現場を拝見するとか。本当は1学期2学期と研修に行っていただくのがいいのでしょうけれど、なかなか今そこまでは厳しいですよ。

だからまずは1日だけ見ていただくとか、あとはリフレクションを大切にされているのは特徴でしたけれど、そのようなプログラムを入れるだけでも、かなり効果はあるのかなという感じはします。

イエナプランは、1つの手法ですけれど、要は主体的に自らが社会の一員としてということだと思っております。

リフレクションは、要は自らが目の前にいる仲間たちと一緒に自らで振り返っていくという作業なので、いくつか参考になりそうなものもあると思うので、取り入れられそうなものは現場で取り入れていただくことをしていただけるといいのではないかと、と思います。

ただ、今、いろいろな事をやらなければいけないから、すぐにイエナプランを全体で同時にというのはやはりなかなか厳しいのかなということは私も感じる場所ですので、できることから一歩ずつというところですよ。

他はよろしいですか。

そうですね、では教育長何かありますか。このパブリックコメントに対して何かあれば、教育長の方から。

渡邊教育長

そうですね。

58件ものご意見をいただきましたというのが、まずはすごくありがたいなというふうには思っています。

それほど市民の方々が、この新しい教育ビジョンに関して関心を持っていただけているというふうには思っていますので、これから、そういったいろいろなご意見を参考にしながら、取り入れられるものは取り入れていく。

そして、先ほども言いましたけれども、実際に進めていただくのは現場の教員の方々が中心になります。そういったところをしっかりと支援していきたいなというふうには思っています。

藤代市長
(議長)

私の方からは、いくつかあります。

まずは多くの皆さんに関心を寄せていただいて、貴重なご意見をいただいたことに対しまして、改めて感謝を申し上げたいと思います。

今回、反映する意見は0件でありましたけれども、しっかりといただいた意見を踏まえながら、この教育ビジョンを進めていくということが大事なのだろうと感じています。

今回、検討の対象外になったところでいくと、例えば、いわゆる社会教育であるとか生涯学習の一部の分野については、今回検討の対象外でありましたけれども、こういった場も当然ながら子どもたちにとっても非常に重要な学びの場、居場所でありますので、来年度以降、既に別の総合教育会議の場ではお伝えをしておりますけれども、こういった方向性がよいの

かというところをしっかりと議論をしていきたいと考えているところであり
ます。

意見の中であったところで、やはり豊かな自然ですね。こういったもの
をもう少し生かしたらどうかというところがありましたけれども、これも
当然、コミュニティ・スクール含めて各学校の個性に合わせて、そういつ
た取り組みを進めていくということだと思いますし、印西市として見る
と、今回、第2次の後期基本計画を策定するにあたって経営ビジョンとい
うことで緑育職住近接の未来都市というビジョンを掲げさせていただきま
したけれども、緑（りょく）という、緑が入っていますので、今グリーン
インフラの戦略策定等々も進めようとしていますけれども、こどもから大
人すべての世代の皆さまがこの豊かな自然との接点を持てるようなまちづ
くりというもの、これは印西市全体としても進めていくということにつ
いてはお約束をさせていただきたいと思っています。

あとは、先ほど少し学校ごとのという話をしましたけれども、教育長の方
からもイエナプラン、まずは規模の小さい学校でという話もありました
けれども、今回、地区に応じた学校ごとの個性をどう作っていくかとい
う話については、あえて議論はしなかったところでもありますけれども、この
点についても来年度以降、避けては通れない論点になってくるのかなと思
っているところですので、別途検討を進めていくということになるかなと
思っています。

小規模校もありますし、過大規模の学校もありますし、本当に様々な学
校がある中で、一部にはやはり全国的には学校の統廃合ということと言わ
れている中であつても、印西というのはかなり稀有な地域なわけですがけ
れども、その中であつて、学びの場を、学校ごとにどう作っていくのかとい
うところについては、次のステージと言いますか、次の段階においてはす
ごく大事な論点になってくるのだろうなと考えています。

あとは、外国籍の方々です。

国籍に関わらず、海外にルーツを持たれているの方々についても、パブリ
ックコメントでご意見をいただいていたかと思えます。

令和8年度、来年度ですね。印西市の国際化の方針を見直すタイミング
でありますので、その中で、そういった論点についてもしっかりと重要な
論点になりますので、検討を深めていく必要があるかなと感じていると
ころであります。

一旦パブリックコメントについてはよろしいですか。

はい。それでは、これまでの9回の議論を踏まえながら、また今回のパ
ブリックコメントを踏まえて印西市の教育ビジョンについて、総括的なデ
ィスカッションと申しますか、議論ないしは皆さんからご感想のほうをお
伺いしたいと思っております。

せっかくですので、画面の方に教育ビジョンの方を投影していただい
てもよろしいですか。

今後、このイラストと書いてあるところにはイラストが入ってくるとい
うことですよ。まさに共につくるではないですけども、皆さまからい

いただいたイラストをこの中に入れていくということになります。

最後の議論に入る前に少しだけ、教育ビジョンの全体像をもう1回振り替えさせていただきます。

今回、前回の総合教育会議からデザインをかなり作りこませていただいたところでもあります。少し字が細かいので申し訳ないのですが、

「学びが変わる。未来が動き出す。」ということで、これに込めた、これを最終的に選んだのは教育長でしたよね。

これを選ばれた思いを、せつかくですのもう1回。

渡邊教育長

この「学びが変わる。未来が動き出す。」というところで、これまでの学びのスタイルといいますか、それを全部否定するというそういうことではなくて、これまでやってきたことも当然大事なことであり、その上に、知識を教えていく、それが中心だった学びから、先ほど長尾委員もおっしゃいましたけれど、自ら問いを持って、そして仲間と協働して探究していく、そのような学習スタイルを多く取り入れることで、子どもたちにしっかりとした学力というのですかね、力をつけさせていきたい、そうすることで印西市の未来を担っていく子どもたちですので、それが学校教育から動き出すという、そのような気持ちを込めたものと考えています。

藤代市長
(議長)

またこの「変わる」「動き出す」というところですよ。

これは教育長もこれを決めた場でおっしゃっていましたが、やはり現場の、先生方含めて、「これから変わっていくんだ」「動き出すんだ」ということをしっかりとメッセージを伝えたい、というような意図もあってこういったことを選ばせていただいたと、そのように理解をしています。

めくっていただいて2ページです。

少し字が小さいのですが、左側の基本的な考え方です。

ここは修正可能だったら、この大事なところをハイライトしておいていただけるとよろしいかなと思います。

地域にとって子どもたちが宝であるということですよ。

また地域の未来そのものであるということだと思います。

ですので、この正解がないと言われる時代においても、この子どもたちがしっかりと幸せに生きる力を育むという、その力を育てていくために、教育委員会もそうですし、そこに当然ながら市長部局も一緒になりながら、この取り組みを進めていくということが私たちの基本的な考え方であるということでもあります。

であるがゆえに今回、あえてこれまで総合教育会議で作っていた教育大綱と、教育委員会の中で作られていた教育振興基本計画を一本化した上で、印西市教育ビジョンというものを市役所全体で作らせていただいたということでもあります。

次のページにいただいて総論、ここにもイラストが入りますので、ぜひ多くの児童生徒の皆さまに応募いただけると幸いです。

めくっていただいて。

いろいろと書いてあるわけですがけれども、簡単に、先ほど申し上げた通りでやはり変化が激しい中であって、こどもたちがしっかりと生きる力を育んでいく必要があるということでもあります。

6ページに飛んでいただきまして。

これも少し字が小さくて恐縮ですがけれども、3つの力です。

自分らしく生きるということ。あとは未来を自ら創っていくと、自分らしく生きるということ。あとは他者とつながっていくこと、やはり社会において1人では生きられないわけでもあります。

そういった中であって未来を創っていくというこの3つが、これから我々としては大きな、大切な力になっていくだろうということで、今回これを私たちとしては高めていくような環境を目指していきたいということでもあります。

その上で、7ページにいただいて、今回、3つのプロジェクト、これを大きな柱に置かせていただいたところでもあります。

この下にさらに10の施策が展開をしていくという構成になっています。

1つが、この教職員の皆さまですね、働くプロジェクトということで、やはりこどもたちに一番向き合っているのは現場の先生たちでありますので、先生方が前を向いてと言いますか希望を持ちながら、働けるような環境を作っていくということが、一番だろうということで、あえてこのプロジェクトの最初にはこの先生方というものを持って来させていただいたということでもあります。

そして2つ目がこの真ん中です。

こどもたちですね。

このこどもたちに対して、本当に一人ひとりのこどもたちが自らが、この未来を切り拓いていく力を作っていくための教育環境を整えていくということを書かせていただいたところでもあります。

避けて通れないデジタルの話もありますし、あとはグローバル社会にどう向き合っていくか、また本当にいろいろなこどもたちがいる中で、多様な学びの場、これをどう整えていくのか、こういったあたりを柱に据えさせていただいたということでもあります。

そして3つ目、一番右でありますけれども、地域の中で共に育むということ、コミュニティ・スクールの取り組み等々も始まりますけれども、併せて、アフタースクール、学童クラブと放課後こども教室と塾・習い事を1つの場所で受けられる、そうした新しい取り組みも始めていくわけでもあります。

部活動の地域移行、これも始まっていくわけでもありますけれども、しっかりとこの地域の皆さんと一緒に育んでいくというこの3つが、我々として大きな柱のプロジェクトと位置付けた上で今後、取り組みを進めていくということになって参ります。

この後のページについては、今回はこの場では説明については省略をし

ますけれども、それぞれのこのプロジェクトの内容について、1つ1つ、我々なりの考えと施策の方向性について述べさせていただいているといった、そういった構成になっています。

こちらについては、皆さんから応募いただいた絵、これを最後、加えさせていただいて、それをもって完成を見るということでもあります。

これとは別に概要版、こちらについても今作成を進めていますので、なるべく多くの市民の皆さんに手に取っていただけるような、そうしたわかりやすい、この内容は非常によくできているかなというのを勝手に私としても感じているところである一方で、少しボリュームも多いので、皆さんにとって、手に取りやすいような概要版についても用意をしていくということと考えているというところでもあります。

せっかくですので、教育委員の皆さんに感想をいただく前に、事務局の方から何か、今回のこの教育ビジョンの策定に際して、一言ずつコメントをいただければと思うのですけれども、どうしましょう。

今回は教育委員会の先生方に。学務課長から順番に行きましようか。

学務課長

この策定にあたりまして、大変不安を持ちながら進めていたところは本音のところでは。

なぜかという、今までは教育基本計画という形で進めていたわけなのですが、なかなか学校の管理職も含めてだと思えるのですけれど先生方一人ひとりが、それを意識してどれだけ教育活動を行ってきたかというところは、なかなか少し難しいところがあったのではないかなというところが本音なのですよね。

ですので、自分としては、こういうふうな形教育ビジョンというふう形になっていったことを皮切りに、何とか印西の教育が、概ねこのような形で進んでいくことを強く望んで作成に当たりました。

自分はプロジェクト01のところにある意味、意見を言わせてもらったところが大きいわけなのですが、何とかここを主というよりは何かその次の学びと両輪で進められて、何とかこの形が、このような施策がいい形になって学校現場で表れることを強く望んでいきたい、望みたいということが今の心境であります。

以上です。

藤代市長
(議長)

望むというか推進者として。来年度、どちらに在るかはおわかりませんが、教育委員会にしようとも、その外にしようとも作った人間として、策定に関わった責任が問われると思いますので、推進役としてぜひお力をお貸しいただけると幸いです。

はい、では指導課長お願いします。

せっかくなので、教育長、今の学務課長のコメントに何かあれば。よろしいですか。大丈夫ですか。

では指導課長お願いします。

指導課長

はい、今回、この教育ビジョンの策定に携わらせていただきました。

もともとは学校現場の側の人間ですので、その学校で働く職員としての視点を大切に持ちながら、今回の策定に携わらせていただいたつもりです。

特に、先ほどの学務課長とも重なるところはあるのですが、これまで、市にあった教育大綱や、教育振興基本計画については、おそらく学級担任をしている先生はほとんど知りません。

そういう意識をして、市の施策であったりということを、1つ1つ切り取ってみれば多分、「これは知ってる」「あれは知ってる」というものはあると思うのですが、とても網羅的に学びながら教育に携わっている、そんな余裕は正直言ってありませんので、ただ今回できたこのビジョンというのは、比較的このカラフルさですとか、これまでになかったような施策が数多く盛り込まれている、とはいえ、「これまでになかったからまた新しく始めなきゃいけないのか」というところではなくて、「もしかしたらもっともっと働きやすくなるかもしれない」とか、「こどもたちの学びが、もっともっと魅力的なものになるかもしれない」というようなワクワク感を持っていただけると嬉しいなという気持ちと、自分もいずれまた学校に戻ると思っていますので、その時に、このビジョンについて、少しでも先生方に素直に受け入れてもらえるような、そのような学校経営、学校運営をしていきたいなというふうに考えています。

以上です。

藤代市長
(議長)

ありがとうございます。

副市長は最後にしますか。では、深澤さん。

指導課副参事

はい。今日はありがとうございます。

私も作成に携わりまして、やはり現状、客観的にこの事務局の立場で学校の様子を見て、「どのような教育をしていけばこどもたちが伸びていくのかな」、それから「教職員が安心して働けるのかな」ということを考えながら、それには「どういうふうにしていったらいいのかな」といつも考えながらやっていきました。

やはり、先ほど教育長からお話がありましたけれど、絵に描いた餅ではなくて、実際できるようにするにはどうしたらいいかというところをいっぱい考えたということを覚えています。

このことで、本当現場の先生方が安心して働く、こどもたちが自分の良いところを伸ばして、どんどん楽しく勉強していける、そんなふうになっ
ていけるように、またこれからも応援していきたいなと、考えていきたいな
なと思っているところです。

以上です。

藤代市長
(議長)

ありがとうございます。では、斉藤先生。

教育センター 教育センターです。
所長 私もこのビジョンの作成に携わらせていただいて、特に不登校支援の方を中心にさせていただきました。
正直、今までのコメントの中でも出たのですが、こうやって自分が現職のときに意識していたかということやはり見ていませんでした。
ただ今回のこの不登校支援に関しては、何年度までに何をやるのか、こういうような形で考えているということを出させていただけということがすごく大きくて、次、我々が教育センターとしてできるとしたら、保護者の方とか、児童生徒をどうやって支えていくかということ、学校の現場とどうやって協働してやっていけばいいのかということ、これから、このビジョンをもとに考えていかなければいけない。
まだ少し課題としては残っておりますので、これからも検討していきたいなというふうに考えております。
以上です。

藤代市長 はい。ありがとうございます。それでは松本先生お願いします。
(議長)

教育DX専門 はい。
官 こどもたち一人ひとりが、自分で舵取りをして、ウェルビーイングに向かって歩いていける、そういった環境を整えたいというのはずっと思っていました。
そういった意味で、この教育ビジョンができ上がったということは大変うれしく思っていますし、そのために、やはり教員一人ひとりが輝いて、学校が一丸となって地域の皆さんと協力しながら、こどもたちのために、本当にこれからもますます力を発揮できたらいいなというふうに思っています。
その結束力を高めるための、この教育ビジョンでもあるかなと思っていますので、皆様、どうぞ引き続きご協力よろしくお願いします。

藤代市長 ありがとうございます。生涯学習系の両課長も何か話されますか。
(議長) どうされます。
せっかくですので、教育ビジョンの外側の話でもいいですし。

生涯学習課長 生涯学習課としましては、今回のビジョンにおきましては主にこどもを対象ということで作りました計画ですので、こどもに特化したところを入れさせていただき、また地域と共にというところを大事にしていきたいということで入れさせていただいております。
生涯学習課としましては、新たな施策としてコミュニティ・スクール、アフタースクールを行っていくこととしておりますので、地域としっかりと育んでいけるように、新しい施策をしっかりと取り組んでいきたいと考えております。

また生涯学習に関する計画は、先ほどお話ありましたけれども、別途作成する予定ですので、こどもたち以外の部分の社会教育、生涯学習について、またしっかりと考えていければと考えております。

藤代市長
(議長)

一部、こどもたちのこともおそらく含まれるような内容になるはずですよ。重複がある分にはそれはよろしいかと思っておりますので。

最後、文化振興課長、少し今回、若干対象外ですかね。

文化振興課長

はい。

若干対象外ではございますが、市長が常々、こどもたちは地域の宝であるとおっしゃられています。

こどもたちがその社会の中に出て、より良く生きていくために育んでいくものが教育であると思っております。

その教育に関する将来を見据えたこの印西市の、思い、考えというものが、この教育ビジョンというもので形ができたわけで、このことが広く市内外に強いメッセージになると考えておりました、大変よかったなと思っております。

以上でございます。

藤代市長
(議長)

ありがとうございます。

こちらサイドも話されますか。企画政策課長、いや教育総務課長が先に話しましょうか。

そのあと、企画政策課長で、野崎副市長にコメントいただいて、教育委員、ここの皆さんの方にもと思います。

教育総務課長

はい。

自分は立場上、今回取りまとめという形で一体的にこの計画に携わらせていただきました。

以前の教育振興基本計画の中にも、こどもたちに対する、学校教育の部分の計画づくりもあったのですが、それをより、今現状で起きている問題を抽出して、わかりやすくなっている計画となっているので、とてもすばらしい計画だったと思います。

あと、先ほど指導課の岡田課長もおっしゃられていましたが、今印西市は700人近い教職員の方がいらっやいまして、その方になるべく浸透していただいて、進めて、考えを持ってやっていただければなと思っております。

以上でございます。

企画政策課長

事務局の企画政策課でございます。

今回教育ビジョンということで、これまでは、基本計画をそのまま取ってつけたような形の整合性はあるのですけれども、少し魂がどうなのかなという部分もございまして、ガラリと教育ビジョンということで変わりました。

この裏には総合教育会議に至るまで、ワーキンググループ内で多数の職員に関わっていただきまして、また多くの先生方のご意見なども頂戴いたしまして、今回、この教育ビジョンというものができ上がっております。

多くの方々に感謝するとともに、やはり今後、確実に着実に施策を進めていくということが、もっと大きな使命だと思っておりますので、また総合教育会議の場でも、情報共有、また議論をさせていただきまして、印西市の教育がより良くなるようにということで、微力ながら務めさせていただければと思います。

以上でございます。

藤代市長
(議長)

野崎副市長の方からもお願いします。

野崎副市長

はい。副市長の野崎でございます。

私はこの教育ビジョンの中身というより策定プロセスについて、少しコメントさせていただきたいと思うのですけれども。

今、企画政策課長からお話もありましたとおり、総合教育会議の前にワーキンググループということで、市長部局と教育委員会の合同チームみたいなワーキンググループをつくりまして、そこで主に私がファシリテーションという形で、いろいろワーキングを進めさせていただいたのでありますが、今回の教育ビジョンはやはり、いわゆるコンサル任せではなくて、もう自分たちで職員自ら、また先生方自ら頭を使って考えて、「どういう構成にしようか」とか、「そもそも教育の目指す姿は何で、その目指す姿になるためにはどういう課題、どういうことが必要で、そのためにはどういう取り組み・プロジェクトをやっているのか」とか、そういったことをワーキンググループで、いろいろなテーマ、様々なテーマを有識者の方にも来ていただいたり、あとは先進地に視察に行ったり、また学校の先生方とか子どもたちとの給食ミーティングも含めて、様々な活動を通じて、我々なりの考えをブラッシュアップしながら作っていったというところで、最後のデザインの部分はプロに少しお力をいただいておりますけれども、中身は本当に、ほぼすべて自分たちで作ったというところが、1つ大きな特徴かなと思っております、やはりこういったプロセスは教育ビジョンに限らず、今後市役所の方で作っていく、様々な計画類についても参考になるような素晴らしいプロセスで作ることができたかなと思っております。

一方で、広報戦略というものを今年度作ったのですけれども、その、サーロインの法則、戦略というものを掲げていまして、3対6対1でサーロインなのですけど、それは何かというところでは3割にすぎないということで、しっかりと届けるということが6割ですと。

最後の1割は届いているかどうかをしっかりと効果測定というか、検証をして、より効果的な届けるというところに改善を重ねていくと、というような広報戦略の戦略1に掲げたのですけれども。

教育ビジョンというのも立派な素晴らしいものができたかなと思うので

すけれども、やっぱり作るのは3割で、それをしっかりと教育現場であるとか子どもたちであるとかに、また多くの市民の皆さん含めて届けていくというところが、今後大事になってくるかなと思っています。

また、定期的にしっかり届いているかというところで、様々な取り組みが進んでいるかどうか、今後、総合教育会議でも進捗管理みたいなのところもさせていただきませうけれども、そういったところで今年度いっぱいかけて素晴らしいものを作りましたので、来年度、今後はしっかりと届けるというところに、焦点を当てていきたいな、というところを思っております。

私からは以上です。

藤代市長
(議長)

ありがとうございます。

野崎副市長は就任して最初の仕事ですよ、これが。大変だったと思えますけれども、無茶振りを受けていただいてありがとうございます。

では最後、教育委員の皆さんから一言ずつ、頂戴したいと思います、誰から行きましょうか。

屋敷委員から、はい。

屋敷委員

はい。屋敷です。よろしくお願いします。

自分は経験談を踏まえて少しお話させていただきたいのですが、以前、青少年相談員という活動をしておりまして、学校へ行ったり、また連絡をとったりという機会がありました。

市の行事や、私は本埜地区で活動させていただいたのですが、地区行事としてその案内文を学校に伺って、配布をお願いしたり、また相談員の地区長として、地元小中学校の卒業式・入学式など、出席もさせていただきました。

その時に感じたのは、最初の頃、行き慣れてない頃は、学校は何となく守られている場所で少し閉鎖的なイメージがあって、何となく行きづらい、というような感じがあったことを思い出します。

ただ行っているうちに、先生たちに笑顔で迎え入れていただいて、当然行きやすくなりますし、青少年相談員の行事の方も何となく円滑に進むような感じを覚えています。

そのために、子どもたちの笑顔のために、行事を充実したものを作りたいとか、そういう気持ちが強くなって、そのことは、実際PTA活動や学校行事の参加でも同じような思いをしたことを覚えています。

このように、地域と共にある学校づくり、もしそれを推し進めるには、まず先生方の笑顔が、大事であり、そのような環境づくりが必要だと。

それによって生徒さん、児童さんの笑顔も繋がって、また地域の皆さんが学校へ近づき、また協力へと繋がっているものだと考えています。

そして学校、地域、専門機関が連携して子どもに寄り添う体制は本当に欠かせないものかと思えます。

子どもは一人ひとり違う背景を抱えていて、画一的な支援ではありえな

いこともあるかと思えます。

だからこそ、このビジョンの実現にあたって、支援に繋がるまでの動線を丁寧に整えることが必要かと思えます。

教育ビジョンはこれからの印西市の教育をさらに向上させるための道しるべとなっています。

この道しるべを現実の力に変えていくには、こどもたちの小さな変化に気づいて、それを見守る地域の温かさが必要かなと思っています。

自分は委員として、また地域の人として、教育現場の気づきや、課題をしっかりと見届けて、より実効性のある仕組みづくりに貢献していきたいなと考えています。

以上です。

藤代市長
(議長)

ありがとうございます。

最後は豊田委員ですので。増田委員、お願いします。

増田委員

はい。増田でございます。

私は、今は印西市民ではないのですが、生まれも育ちも印西市で教員になってから30代後半から印西市内の小学校で働き、退職後もこうして教育に関わる、携わらせていただく、そういう仕事を続けさせていただいてきました。

ですから、私は印西市が大好きです。

印西市のこどもたちのこと、それからこれまで一緒に働いてきたその仲間たちが今も現場で奮闘しているとそういうことを、思いながら、そのことに思いをはせながらやってきました。

ずっとこどもたちや、そうした先生方の応援団でありたいというふうに思っています。

これから印西市のこの教育ビジョンが広く市民の方々に広がっていったら、先ほど教育長がどのような形で学校の方におろされるかということをご説明くださいましたけれども、新年度が始まれば、1年の中で最も大変な時期に入りますが、忙しさの連続でとても大変な時期になるのですけれども、それが落ち着く時期に来たら、先生方にはこのビジョンの内容を見ていただいて、それぞれの学校ごと、その実情に合わせて、取り組みのイメージを持ってやっていっていただけるのが大事なことはないかなというふうに思っています。

忙しい中に、またこうして新たな取り組みが増えたというような感じに受け取られる先生方もいらっしゃるかもしれないのですけれども、この取り組みの中には、もうすでに種まきをされているものもあるし、担当の方々がいろいろに準備を進めてくださっていたものもあって、新しいものに、これから新たに取組みねばならないというものではないというふうに感じます。

その取り組めるものを1つずつでも具体化していったら、一歩ずつというふうに進めていただけたらいいなというふうに思っています。

学校教育の営みはとて時間をかけていくものですし、成果を数値とか結果とかということで、なかなか例えられないというようなものも多くあると思いますが、先生方が子どもたちの笑顔を励みに、自分たちの働きやすさ、そうしたものを考え、働きがいを感じて、これからも頑張っていっていただけるように、応援させていただきたいなというふうに思っています。

それと、私はこの立場になってまだ5ヶ月しかたっておりません。

それで、この総合教育会議も後半からの参加ということで、大事な前半部分、これまでの教育ビジョン策定のそのプロセスをわからずにいたところもあって、実は先ほども出ていたイエナプラン教育、これをこの後、公立学校の導入について今後検討していくというような文字があったときに、「本当に検討するのですか」というようなところを、本当は聞きたいような気持ちでいたところだったのですけれども、1つこれも実情に応じて取り組めるものということのお話もありました。

ですので、こういうことはやはりきちんと聞きながら、その状況を勝手な思い込みにはしないことが大事だな、というふうに思いました。

先ほど、教育委員会の先生方、関わられた先生方のお話も聞くことができて、私はいろいろな取り組みに直接に当たっている指導主事さんたちが、どんなふうなことに一生懸命取り組まれているか、苦勞されているかというところを、直接にいろいろと情報を聞くことができて、こうしているいろいろな点がいっぱいあるなど。

これはまだ、でも線になっていない。

これがこれから、いろいろな取り組みが理解されて集まって、線から面が変わっていくというような具合になれば、学校も安心する形で、こうした教育ビジョンについての取り組みがなされていくかなというふうに思います。

私もこの後ですね、印西市民の方々と同様に学校を応援するというところに力を尽くしていきたいと思えます。

以上でございます。

藤代市長
(議長)

はい。ありがとうございます。
それでは長尾委員、お願いいたします。

長尾委員

はい。ありがとうございます。
今回の新しい印西市の教育ビジョンを作成するというところで、たくさんの方たちからのパブリックコメントを読ませていただいて、今現在、私が現役の保護者として、この教育委員会に携わらせていただいている身として、今本当に感じるものが、やはりこういうことを学校の先生や行政任せにするのではなくて、私たち保護者や地域の方々や市民団体、そして図書館や公民館などの施設、そういう人や施設がみんな協力しながら、みんなでも子どもたちを育てていくという、そういう仕組みづくりがとても大切なのだなというふうに感じました。

教育現場では、マンパワーが少ないという声が上がっている一方で、「いやいやまだ特別支援とか不登校支援とか、外国にルーツがあるこどもたちの支援ですとか、そういうものにもっともっと力を注いでもらいたい」という声があったりとか、またその一方で、「私たちはこどもたちのために協力できることをしたい」という、そういう気持ちを持った方々もたくさんいるのだなということがわかりました。

その中で、私が可能性を感じたのは、印西市独自の人材バンクというものでした。

この資料の12ページにもあったのですが、今現在、この印西市独自の、人材バンク、ポスターがあるのだというふうに先ほどお話を聞いて、そのポスターにはQRコードもついていて、興味を持った人たちが、気軽にそのQRコードを読み込んでこどもたちのためにできることをしたいという気持ちを届けられる、登録できるというそういう仕組みがあるということ、先ほど聞きました。

そういうときに、専門性ですとか資格がある方だけではなく、肩書きとか、年齢とかにとらわれず、こどもたちのために何かできることをしたいという人たちの気持ちが届くような、それが生かされるようなそういう人材バンクであって欲しいなというふうに思いました。

今、私は保護者でこどもたちを育てながら、この教育委員会というところで、いろいろな意見を聞かせていただいたりとか、いろいろなものを見させていただいて、勉強させていただいていて、皆さんからの声を受け取る立場にいらしていただいていると感じています。

これからも私は学校の先生でもないですし、行政の職員でもないのですが、市民と、学校教育を結ぶその立場、窓口として、これからもできることを精一杯やらせていただきたいなというふうに思いました。

ありがとうございました。

藤代市長
(議長)

ありがとうございます。

それでは豊田委員、お願いいたします。

豊田教育長職
務代理者

はい。ありがとうございます。

それでは、最初に今回の教育ビジョンの策定にあたりまして、ワーキンググループの皆さん、また、たくさんの意見をいただいた市民の皆さん、また関係された、すべての皆さんに感謝を申し上げたいと思います。

この教育ビジョンに関する感想ということでございますけども、先ほど来、各委員さんがお話をさせていただいたことに私も全く同感でございます。

そういった中で、何点か素晴らしい点、また今後こうしていただきたいというようなことをお話させていただきたいと思います。

それでは、すでにご承知のとおり教育ビジョンにつきましては、印西市の教育大綱と教育振興基本計画を一本化したということで、近隣市町村にも例を見ない斬新的なものでございます。

今後の印西市の向かうべき教育の方向性というものを定めたものだと考えております。

策定に当たりましては、先ほど副市長から策定までのプロセスのお話ありがとうございましたとおり、教育委員会といたしましても、昨年ぐらいまでは総合教育会議というものは年2回ぐらい開催されていたように記憶しているのですが、今回10回にわたる開催をしていただいております。

藤代市長とは、印西市はもとより、全国的な教育が抱える問題等について意見の交換をさせていただいたということで、大変有意義だったと考えております。

また、各分野から、いろいろな講師の方をお招きしていただきまして、例えばインクルーシブ教育等の先進的なお話も伺うことができました。

我々委員に関しても大変有意義な時間を過ごさせていただいたと考えております。

今後も会議等を通じまして、様々な意見交換をさせていただきたいと考えております。

それでは、教育ビジョンの中身について、これは素晴らしいと思うことを何点か感じたこととお話しさせていただきたいと思います。

まず1つ目は、教職員の働くプロジェクトでございます。

学校の先生方は、先ほどお話もありましたとおり、学校現場において様々な業務に対応されているということでございます。

その結果、本来児童や生徒さんと向かい合う時間がもっとたくさんあればいいのに、それが十分確保されてない状況だということが言えると思います。

また学校における先生の滞在時間、これは少しずつ減っていると伺っているところでございますが、まだまだ改善が必要だと考えております。

今回のビジョンには、そういった教職員の方のための人員面でのサポート、そういったものが盛り込まれたということは大変すばらしいことだと考えております。

教職員の働き方改革が叫ばれる中、これについてはスピード感を持って進めていただきたいと考えております。

先生方が元気でないと子どもたちも元気にならないと思いますので、よろしく願いをいたします。

続いて2つ目は、「こども：学ぶプロジェクト」でございます。

デジタル教育の推進としてAIシステムの導入が行われ、探究的な学びへの発展や、個別最適化された学習を行うなどのメリットがあると伺っております。

ぜひとも、印西市の強みを生かした日本一の教育の実現につなげていただくよう、よろしく願いをしたいと思います。

しかしこういった、AIシステムも1つのツールに過ぎないと思いますので、今までどおり、先生方の子どもに対する伴走、そういったものもよろしく願いを申し上げたいと思います。

最後に、これからの時代はますます多様性が求められて、予測困難な時

代となっていくということでございますが、これからの子どもたちの学びや成長は学校だけではなくて、家庭ですとか、地域との連携によって支えられるものだと考えております。

地域の人材や資源を活用して、学びの場を構築することが大変大切なことと考えておりますので、今後の教育ビジョンの達成に大いに期待するものでございます。

また、教育ビジョンの達成のために、行っております教育施策の評価、また各施策の進捗状況の確認等、これはP D C Aサイクルの徹底をお願いしたいと思います。

さらに最終案に多くのイラストが用いられるようでございますけれども、市民の方、教職員の方、子どもたちが手にとって見ていただけるような体裁にさせていただけることをお願い申し上げまして、教育ビジョンの感想とさせていただきます。

ありがとうございました。

藤代市長
(議長)

はい。ありがとうございます。

それでは最後に教育長と私からということで、教育長からまずお願いいたします。

渡邊教育長

はい。

私が言いたいことをたくさん、言っていたので、重複する部分もたくさん出てきますけれど、まずは最初にも言いましたけれども、市民の方々に関心を持っていただいて、たくさんのご意見をいただいたということ、これはすごくうれしく思っています。

先ほどの市長、また生涯学習課長からもありました通り、生涯学習に関する部分というのは、来年度8年度から別途、計画を策定していく予定でおります。

そちらの方も充実させていきたいというふうに思っています。

この教育ビジョンの策定にあたっては、野崎副市長中心にワーキンググループで何度も何度も話し合いをしていただいて、多くの方が、時間と労力を費やしていただいた成果がこの形になったのだなと思ひまして、改めてこの場で感謝申し上げたいと思います。

また、あわせて総合教育会議の場にいろいろな方面の有識者の方をお招きして、たくさん貴重なお話をいただき、また、ご示唆をいただきました。

とても参考になったと、私自身も勉強になったという思いを抱いています。

来てくださった先生方に、またこの場で感謝申し上げたいと思います。このビジョンは、3つのプロジェクトと10の施策を展開していくというところで、まず子どもたちの学びについては先ほど話しました。

この学びについては、特に印西市が全国に誇るデジタル環境を整えてっておりますし、また豊かな自然もあると、これが2つ大きな市の強みで

もあると思いますので、その部分を十分に生かせるような、そういった学びを展開していければなというふうに思っています。

そして、また日々学校で子どもたち学んでいるわけですが、学校外でも、ご家庭、保護者の方々の家庭教育、またさらに地域の方々の温かいまなざしで支えていただいている、そういった学校外での学びというのも非常に貴重な部分だと思いますので、それがまたプロジェクト3に反映していけるのかなというふうに思います。

そして何より、プロジェクトの1、教職員です。

いろいろな子どもたちの学びを支えてくれる、それが学校の先生方ですので、先生方が誇りを持って愛情を持って子どもたちと向き合っていく。

そういう環境を作っていかなければいけないなと思っております。

当然働き方改革を進めていきますし、現場への支援体制をさらに強化していく、教育委員会として、教職員が本来の教育活動に専念できるような、そういった現場に寄り添った支援をしていきたい。

そして、「印西市で働いてよかったな」と先生方に思ってもらえるように、またその話を聞いた他地域の先生方が「印西で働きたいな」、そう思ってもらえるような施策を展開していく、そのことが、子どもたちの大きなプラスになっていく、学びを支えることに繋がっていくと思っておりますので、そういった現場に寄り添った強い施策を展開していきたいなと思っております。

先ほども出ました、その表紙に書いてあります、「学びが変わる。未来が動き出す。」、これを合言葉に学校教育を基盤としながら、子どもたちの可能性を最大限に伸ばしていける、そういう教育を実現していきたいと考えています。

以上です。ありがとうございます。

藤代市長
(議長)

大体、教育長に言っていただいていたので、もう私があまり追加することはないのですけれども、今回策定に関わっていただいたすべての皆さんに対して、改めて御礼を申し上げたいと思います。本当にありがとうございました。

また、特に職員の皆さん、また教育委員会の先生方、初回の総合教育会議で教育長と私から、各々その教育に対する思いというものはお伝えをしましたけれども、それ以降、ほぼ私は内容については関わることはなかったですね。

当然ながら各総合教育会議の手前のタイミングで、教育長と私とそれぞれその時点において検討しているものについて共有は受けてはいただきましたけれども、ほぼ職員の皆さん、先生方で今回作っていただいたのが教育ビジョンだと思いますので、まさにこの、「学びが変わる。未来が動き出す。」ということを体現されているのが、今回この策定に特に関わっていただいた教育委員会そして市長部局の皆さんなのかなということを感じているところでありますので、改めて御礼を申し上げたいと思います。

実際これからこれをどう実現していくかということが大事だということ

については、事務局の皆さんからも教育委員会の皆さんからも今回委員の皆さんからもご指摘を受けたわけであります。

私の市長としての役割は何かというと、やはり皆さんを支えていくことなのだろうなと思っています。

それは当然予算の面も人員面もありますし、あとは体制面です。

どういった体制にすることによってよりスムーズにこの施策を進めていけるのかということなのだろうと思っています。

ですのなるべく、早いタイミングで、教育委員会で働いていらっしゃる指導主事の方をはじめとした先生方、また現場の先生方が、新しい教育ビジョンのもとで、自分たちが子どもたちに向き合う時間が増えたなどというような実感を早く感じていただけるような、そうした施策を私も先頭になって進めていきたいと思ひますし、全力で教育長のことを支えていくということを私は決めていますので、かなり無理をして、今回教育長にも受けていただいていますし、本当に渡邊教育長のもとで、印西市の教育が前に進んでいくというようなことに対する、可能性を私はすごく感じていますので、責任を持って教育長はじめ教育委員会の皆さんを、また現場の先生方を、全力で支えさせていただくということを改めてお約束をしたいと思ひます。

常々申し上げておりますけれども、人材こそが宝であるということでありまひます。

地域もそうですし、国もそうですし、この世界も、人がいなければそもそも存在しないわけでありまひます。

その中であって、やはりこの国のさらに言うところの公教育、私は大きな可能性があると思ひています。

実際に当市の小学校出身の子どもたちが2年連続で世界大会にも出場しているわけでありまひます。

それは別に、新しい教育長が優れていたからということでは、私はないと思ひています。

あくまでも、これ教育長がよく不易流行ということをおっしゃいますけれども、やはりこの地域の皆さんが、教育現場の皆さんが培ってきたださったものの、上に少し新しいものが加わったことによって、そういった場でも活躍できる子が登場するわけですし、それに限らず、本当に一人ひとりの子どもたちの能力を、力を伸ばしていくような、個性を伸ばしていくような、そうした教育環境を作っていく可能性が日本の公教育、この印西の公教育に私はあると思ひています。

その公教育を担っていただいている、この現場の先生方、そして教育委員会の皆さんをしっかりと支えた先に、その先生方には、この印西の教育ないしは公教育に誇りを持っていただきたいですし、あとはこの地域の皆さんまた保護者の皆さんに、この教育に希望であるとか、また自分も関わってみたいと思ひていただきたいですし、さらに言えば、もう当然ながらでありますけれども、その先に子どもたちが自ら幸せに生きる力を育てていくという、そういう環境をしっかりと作っていくということを私も全力で

進めていきたいと思ひますし、それはしっかりと市役所の皆さんとも協力しながら、一步一步進めて参りたいと思ひています。

あくまでもこれ今回、このビジョンの策定というのはスタートに立ったばかりでありますので、ゆっくり急いで、一步一步このビジョンを実現する中で、真にこどもたちのための一人ひとりに寄り添った学びの環境を作っていければと心新たにしたところあります。

改めまして今回策定に関わっていただいたすべての皆さんに御礼を申し上げたいと思ひますし、またこれからも、重要なパートナーであると考えておりますので、ぜひこの学びの環境をともにつくる仲間として、これからもどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

私からは以上であります。

本日の議題については以上とさせていただきますので、進行を事務局の方にお返しさせていただきます。

企画政策課長
(進行)

ありがとうございました。

なお本日の会議に関するアンケートにご協力をお願いいたします。

Y o u T u b e 配信をご覧の皆様には、概要欄にリンクがございますので、そちらからご回答くださいますようお願いいたします。

それでは以上をもちまして、令和7年度第10回印西市総合教育会議を閉会いたします。

お疲れ様でした。

(午後4時30分)

印西市総合教育会議設置要綱第8条の規定により、上記会議録は、事実と相違ないことをここに承認する。

令和8年3月12日

印西市教育委員会委員

長尾 香奈